

88 投稿

# うつ1次スクリーニングにおける 「初期陽性反応」と「1次陽性確定」との比較・検討

ナカマツ カズユキ アイホシ ソウゴ ニシ ノブユキ  
 中俣 和幸\*1 相星 壮吾\*2 西 宣行\*3  
 ミヤノシタ ヒロミ ゴダ タカコ ウダ ヒデノリ  
 宮ノ下 洋美\*4 五田 貴子\*4 宇田 英典\*5

**目的** 鹿児島県では平成14年度から各種保健事業の場を活用して「うつ状態」の1次スクリーニング(以下「うつスクリーニング」)を5保健所管内で実施している。その中で、基本健康診査(老人保健事業)(以下「基本健診」)の場を活用して実施したうつスクリーニングは受診者数が最も多いことから、判定結果と各設問ごとの回答状況についての基礎資料を得る上で基本健診での状況を分析することが最も有用であると考え、性・年齢別の分析と各設問の回答状況の分析を行うこととした。

**方法** 平成14年度と15年度にうつスクリーニングを受診した者のうち、基本健診とその結果報告会の場で受診した5,492人を調査対象として、うつスクリーニングの「1次陽性確定者」の性・年齢別の出現状況およびうつスクリーニングの8項目の設問ごとの性・年齢別の回答状況について分析した。

**結果** 全体の「1次陽性確定者率」は7.1%で、性・年齢別では4.8%から13.6%までの幅があった。40歳代・50歳代を除いた年代で、陽性者率は女性の方が男性よりも高かった。男女ともに年齢が増すにつれて陽性者率は低下する傾向が認められた。うつスクリーニングの8調査項目ごとの「初期陽性反応率」は1.3%から20.2%の範囲であった。特に高かった項目は、「自分は役に立つ人間だと考えることができない」(20.2%)で、「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」(19.4%)と続いていた。8項目すべてによる総合的な評価である「1次陽性確定率」の評価と共に、各設問ごとの「初期陽性反応率」を求めることにより、より詳しい「こころの健康」状態の把握が可能となると考えられた。

**結論** うつスクリーニングの「1次陽性確定者」は40歳代・50歳代の男性で比較的多く出現しているが、鹿児島県ではこの年代の基本健診受診率は他の年代の受診率よりも低い現状である。今後の「こころの健康づくり」活動を展開する上で、この年代層の基本健診受診率向上対策が求められる。性・年代によって「生きがい維持を主としたアプローチ」「身体機能維持を主としたアプローチ」「うつ気分への対応方法を主としたアプローチ」を適宜組み合わせるプログラムを企画するなどの工夫が、対策を考える際により効果的であろうとの示唆を得た。

**キーワード** うつスクリーニング, 基本健康診査, こころの健康づくり, 1次陽性確定者率, 初期陽性反応率

## I 緒 言

自殺による死亡者数は年々増加しており、「健

康日本21」では「年間自殺者数31,755人(基準値)を22,000人以下(目標値)に減少させる」という項目が掲げられている。一方、各種保健

\*1 鹿児島県出水保健所長 \*2 同県徳之島保健所長 \*3 同県加世田保健所長(前同県志布志保健所長)  
 \*4 同県伊集院保健所技術主査 \*5 同県川薩保健所長(前同県伊集院保健所長)

事業を展開している現場では、この目標を達成するために何をどのように取り組めばよいのかについては暗中模索の状態である、と言っても過言ではない。

鹿児島県内の複数保健所では、うつスクリーニングの導入による早期発見・早期介入の実施可能性について自主学習会などを通じて検討し<sup>1)2)</sup>、大野ら<sup>1)</sup>の開発した「うつスクリーニング票」を用いて1次スクリーニングと2次スクリーニングを行い、最終的に「1次判定陰性(異常なし)」者、「受診勧奨」者、「経過観察」者に分類し、それぞれに応じた保健活動(介入)を行うシステム(図1)を構築し、実際に平成14年度からいくつかの市町村の理解と協力の下で、各種保健事業の場を活用して「うつ状態」の1次スクリーニング(以下「うつスクリーニング」)を実施している。これらの実施結果や評価につ

図1 「こころの健康度」スクリーニングの実際(概要)<sup>1)3)</sup>

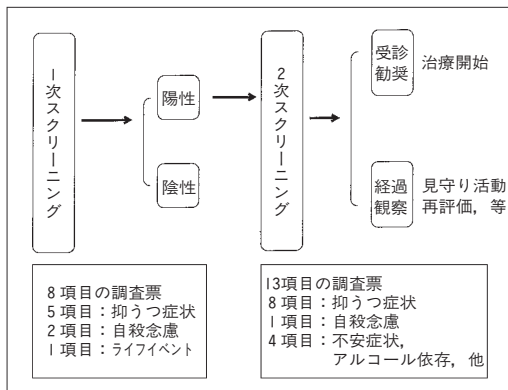


表1 各種保健事業別にみた1次スクリーニングの結果<sup>4)6)</sup>

	受診者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
平成14年度			
基本健診 (①)	1 289	106	8.2
〃 結果報告会(②)	557	37	6.6
平成15年度			
基本健診 (③)	3 246	195	6.0
〃 結果報告会(④)	400	55	13.8
健康相談会	21	4	19.0
介護家族教室	25	12	48.0
介護者訪問指導	23	19	82.6
家庭訪問	6	3	50.0
その他	256	31	12.1
総 数	5 823	462	7.9
(別掲：①+②+③+④)	5 492	393	7.2

いては、既にくいつかの報告がなされている<sup>3)~6)</sup>。

一方、宇田ら<sup>3)</sup>や宮ノ下ら<sup>4)</sup>によって、1次スクリーニングの最終確定結果で「陽性」となる者の出現率が各保健事業により異なることも示されており(表1)、多くの住民を対象に共通の指標で現状を評価し、基礎値(基本データ)を得ることも必要である。

そこで今回、筆者らはこれらの各種保健事業の中で、うつスクリーニング受診者の心身面が比較的落ち着いていると考えられ、かつ、うつスクリーニングを受診した者の数が最も多い基本健診とその結果報告会の場での受診者を対象として、その状況を分析したので報告する。

## II 研究方法

### (1) 対象

平成14~15年度に基本健診の場を活用してうつスクリーニングを実施した市町村(鹿児島県内)の受診者(表1中の①+②+③+④,計5,492人)とした。

### (2) 方法

#### 1) 性・年代別にみたうつスクリーニングの1次陽性確定者の出現状況

うつスクリーニングで用いる調査票は、抑うつ症状に関するものが5項目、自殺念慮に関するものが2項目、離婚・死別などの重要なライフイベントに関するものが1項目、計8項目から構成されている(表2)。

調査票は「こころの健康度自己調査票」と題

表2 設問一覧

設問1	毎日の生活が充実していますか。
設問2	これまで楽しんでやれたことが、今も楽しんでできていますか。
設問3	以前は楽しんでできていたことが、今ではおっくうに感じられますか。
設問4	自分は役に立つ人間だと考えることができますか。
設問5	わけもなく疲れたような感じがしますか。
設問6	死について何度も考えることがありますか。
設問7	気分がひどく落ち込んで、自殺について考えることがありますか。
設問8	最近ひどく困ったことや、つらいと思ったことがありますか。

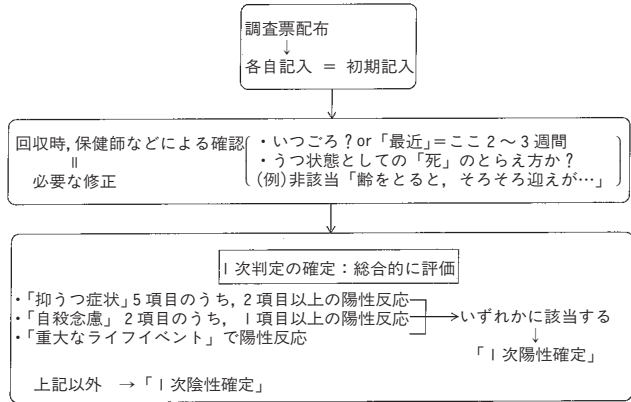
して配布し、各自が記入することを原則とした。しかしながら、各自の記載に欠落があったり症状のとらえ方に差があり、また対象者の表現の変化を確認しながら実施する必要があることから、回収時に保健師などが確認することとした。特に「陽性反応」を示す回答については、「いつごろからの変調なのか?」「いつごろ起こったことか?」「うつ状態と考えられるエピソードと考えるとよいか?」などを再確認し、必要に応じて修正し、最終的にはこれらを総合的に評価し1次判定項目を確定した(図2)。

1次うつスクリーニングのうち、抑うつ症状5項目の中で2項目以上の陽性反応、自殺念慮2項目の中で1項目以上、重大なライフイベントがあることの、いずれかに該当する者が総合的に評価され「1次陽性確定」と判定される<sup>1)3)</sup>(図2)。この判定結果を性別(男/女)・年代別(40歳未満/40歳代/50歳代/60歳代/70歳代/80歳以上)に集計した。

2) うつスクリーニングの設問ごとの「初期陽性反応」の出現状況

保健師などによる確認前に各自が記入した各項目ごとの陽性反応を「初期陽性反応」として、

図2 配布から回収・修正および1次判定の手順



全8項目ごとに、受診者全体・「1次陽性確定者」・「1次陰性確定者」群ごとで、それぞれ性・年齢別「初期陽性反応」の出現率を分析した。

III 結果

(1) 性・年代別にみたうつスクリーニングの1次陽性確定者の出現状況

性・年代の記載のあった調査票(5,441人分)全体でみたうつスクリーニングの1次陽性確定者率は7.1%(陽性判定者数:388人)であった(表3)。

性・年代の各群で見ると、男性・70歳代群の

表3 基本健診の「性・年代別1次陽性確定者率」(平成14~15年度)

	受診者数(人)	陽性者数(人)	1次陽性確定者率(%)
総数	5,441*	388	7.1
男性	1,991	129	6.5
40歳未満	28	2	7.1
40歳代	201	20	10.0
50歳代	321	33	10.3
60歳代	690	35	5.1
70歳代	602	29	4.8
80歳以上	149	10	6.7
女性	3,450	259	7.5
40歳未満	44	6	13.6
40歳代	411	35	8.5
50歳代	676	66	9.8
60歳代	1,223	74	6.1
70歳代	940	63	6.7
80歳以上	156	15	9.6

注 \* 「対象」5,492人 - 「性・年代の不明」51人 = 5,441人

表4 設問ごとの「初期陽性反応」の出現状況(平成14~15年度, 対象者数:5,492人)

設問1	毎日の生活が充実していますか。 →「いいえ」: 247人/5,473人(4.5%)
設問2	これまで楽しんでやれたことが、今も楽しんできていますか。 →「いいえ」: 355人/5,473人(6.5%)
設問3	以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられますか。 →「はい」: 1,059人/5,465人(19.4%)
設問4	自分は役に立つ人間だと考えることができますか。 →「いいえ」: 1,101人/5,442人(20.2%)
設問5	わけもなく疲れたような感じがしますか。 →「はい」: 860人/5,462人(15.7%)
設問6	死について何度も考えることがありますか。 →「はい」: 271人/5,461人(5.0%)
設問7	気分がひどく落ち込んで、自殺について考えることがありますか。 →「はい」: 73人/5,472人(1.3%)
設問8	最近ひどく困ったことや、つらいと思ったことがありますか。 →「はい」: 506人/5,451人(9.3%)

4.8%から女性・40歳未満群の13.6%まで2.8倍の出現率の差があった。男性では40歳代・50歳代が10%を超えており、壮年男性の陽性者率が高いことがうかがえた。

表5-1 設問1の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 993	96	4.8	3 446	151	4.4
陽性	129	52	40.3	259	85	32.8
陰性	1 864	44	2.4	3 187	66	2.1
40歳未満	28	3	10.7	43	1	2.3
陽性	2	2	100.0	6	1	16.7
陰性	26	1	3.8	37	—	—
40歳代	201	15	7.5	412	23	5.6
陽性	20	6	30.0	35	14	40.0
陰性	181	9	5.0	377	9	2.4
50歳代	321	29	9.0	677	45	6.6
陽性	33	15	45.5	66	27	40.9
陰性	288	14	4.9	611	18	2.9
60歳代	690	27	3.9	1 225	50	4.1
陽性	35	17	48.6	74	28	37.8
陰性	655	10	1.5	1 151	22	1.9
70歳代	604	16	2.6	941	23	2.4
陽性	29	9	31.0	63	13	20.6
陰性	575	7	1.2	878	10	1.1
80歳以上	149	6	4.0	148	9	6.1
陽性	10	3	30.0	15	2	13.3
陰性	139	3	2.2	133	7	5.3

注 性・年代の明らかな全受診者数 5,441人  
 " 1次判定陽性者数 388人  
 " " 陰性者数 5,053人  
 (以下、表5-8まで同じ)

表5-2 設問2の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 994	99	5.0	3 455	256	7.4
陽性	129	52	40.3	257	117	45.5
陰性	1 865	47	2.5	3 198	139	4.3
40歳未満	28	1	3.6	44	5	11.4
陽性	2	1	50.0	6	5	83.3
陰性	26	—	—	38	—	—
40歳代	201	17	8.5	411	36	8.8
陽性	20	10	50.0	34	16	47.1
陰性	181	7	3.9	377	20	5.3
50歳代	321	21	6.5	678	71	10.5
陽性	33	10	30.3	66	34	51.5
陰性	288	11	3.8	612	37	6.0
60歳代	691	32	4.6	1 224	74	6.0
陽性	35	16	45.7	73	32	43.8
陰性	656	16	2.4	1 151	42	3.6
70歳代	604	20	3.3	940	56	6.0
陽性	29	12	41.4	63	22	34.9
陰性	575	8	1.4	877	34	3.9
80歳以上	149	8	5.4	158	14	8.9
陽性	10	3	30.0	15	8	53.3
陰性	139	5	3.6	143	6	4.2

(2) うつスクリーニングの設問ごとの「初期陽性反応」の出現状況

うつスクリーニングの調査項目ごとにみると、1.3%(設問7)から20.2%(設問4)の範囲で「初期陽性反応」が出現していた(表4)。特に高かったのは、設問4「自分は役に立つ人間だと考えることができますか? <回答:いいえ>」(20.2%)と、設問3「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられますか? <回答:はい>」(19.4%)であった。

設問1「毎日の生活が充実していますか? <回答:いいえ>」については、60歳未満全員(陽性+陰性)で女性に比べて男性の初期陽性反応の出現率が高かった(表5-1)。

設問2「これまで楽しんでやれたことが、今も楽しんでできていますか? <いいえ>」の全員(陽性+陰性)および陰性者群をみると、全年代で男性よりも女性の方が出現率が高かった(表5-2)。

設問3「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられますか? <はい>」については、40歳以上全員(陽性+陰性)で女性の値が男性に比べて高かった(表5-3)。

設問4「自分は役に立つ人間だと考えること

表5-3 設問3の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 989	337	16.9	3 452	718	20.8
陽性	129	81	62.8	259	163	62.9
陰性	1 860	256	13.8	3 193	555	17.4
40歳未満	28	6	21.4	44	9	20.5
陽性	2	2	100.0	6	5	83.3
陰性	26	4	15.4	38	4	10.5
40歳代	200	32	16.0	411	105	25.5
陽性	20	13	65.0	35	27	77.1
陰性	180	19	10.6	376	78	20.7
50歳代	320	66	20.6	678	165	24.3
陽性	33	19	57.6	66	39	59.1
陰性	287	47	16.4	612	126	20.6
60歳代	689	101	14.7	1 224	213	17.4
陽性	35	23	65.7	74	47	63.5
陰性	654	78	11.9	1 150	166	14.4
70歳代	603	97	16.1	939	185	19.7
陽性	29	17	58.6	63	37	58.7
陰性	574	80	13.9	876	148	16.9
80歳以上	149	35	23.5	156	41	26.3
陽性	10	7	70.0	15	8	53.3
陰性	139	28	20.1	141	33	23.4

ができますか? <いいえ>」では、全員(陽性+陰性)でみると、40歳代・50歳代の男性が30%以上の出現率を示していた(表5-4)。

設問5「わけもなく疲れたような感じがしますか? <はい>」では、全員(陽性+陰性)および陰性者群でみると、おおむねどの層も低い出現率(全員:10.4~25.0%, 陰性者群:8.4

~17.6%)を示しているが、どの年代層も男性よりも女性が高くなっていった(表5-5)。

設問6「死について何度も考えることがありますか? <はい>」は、40歳代を除く年代層で女性が男性よりも高くなっているが、どの年代層も10%未満の出現率であった(全員:3.3~7.7%) (表5-6)。

表5-4 設問4の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 984	448	22.6	3 435	651	19.0
陽性	128	66	51.6	258	108	41.9
陰性	1 856	382	20.6	3 177	543	17.1
40歳未満	28	4	14.3	44	2	4.5
陽性	2	2	100.0	6	2	33.3
陰性	26	2	7.7	38	—	—
40歳代	201	67	33.3	410	122	29.8
陽性	20	12	60.0	34	16	47.1
陰性	181	55	30.4	376	106	28.2
50歳代	318	101	31.8	675	153	22.7
陽性	33	16	48.5	66	26	39.4
陰性	285	85	29.8	609	127	20.9
60歳代	690	179	25.9	1 217	221	18.2
陽性	34	16	47.1	74	29	39.2
陰性	656	163	24.8	1 143	192	16.8
70歳代	601	76	12.6	932	120	12.9
陽性	29	16	55.2	63	24	38.1
陰性	572	60	10.5	869	96	11.0
80歳以上	146	21	14.4	157	33	21.0
陽性	10	4	40.0	15	11	73.3
陰性	136	17	12.5	142	22	15.5

表5-5 設問5の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 990	259	13.0	3 448	595	17.3
陽性	129	70	54.3	256	161	62.9
陰性	1 861	189	10.2	3 192	434	13.6
40歳未満	28	5	17.9	44	11	25.0
陽性	2	2	100.0	6	5	83.3
陰性	26	3	11.5	38	6	15.8
40歳代	201	33	16.4	410	81	19.8
陽性	20	13	65.0	35	23	65.7
陰性	181	20	11.0	375	58	15.5
50歳代	320	54	16.9	677	134	19.8
陽性	33	21	63.6	65	38	58.5
陰性	287	33	11.5	612	96	15.7
60歳代	691	72	10.4	1 223	171	14.0
陽性	35	17	48.6	73	44	60.3
陰性	656	55	8.4	1 150	127	11.0
70歳代	603	70	11.6	937	165	17.6
陽性	29	13	44.8	62	43	69.4
陰性	574	57	9.9	875	122	13.9
80歳以上	147	25	17.0	157	33	21.0
陽性	10	4	40.0	15	8	53.3
陰性	137	21	15.3	142	25	17.6

表5-6 設問6の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 994	79	4.0	3 444	192	5.6
陽性	129	45	34.9	259	95	36.7
陰性	1 865	34	1.8	3 185	97	3.0
40歳未満	28	—	—	44	3	6.8
陽性	2	—	—	6	2	33.3
陰性	26	—	—	38	1	2.6
40歳代	201	9	4.5	412	17	4.1
陽性	20	8	40.0	35	10	28.6
陰性	181	1	0.6	377	7	1.9
50歳代	321	18	5.6	676	45	6.7
陽性	33	14	42.4	66	30	45.5
陰性	288	4	1.4	610	15	2.5
60歳代	691	23	3.3	1 219	53	4.3
陽性	35	12	34.3	74	28	37.8
陰性	656	11	1.7	1 145	25	2.2
70歳代	604	22	3.6	937	62	6.6
陽性	29	7	24.1	63	20	31.7
陰性	575	15	2.6	874	42	4.8
80歳以上	149	7	4.7	156	12	7.7
陽性	10	4	40.0	15	5	33.3
陰性	139	3	2.2	141	7	5.0

表5-7 設問7の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 994	30	1.5	3 455	43	1.2
陽性	129	28	21.7	259	38	14.7
陰性	1 865	2	0.1	3 196	5	0.2
40歳未満	28	—	—	44	1	2.3
陽性	2	—	—	6	1	16.7
陰性	26	—	—	38	—	—
40歳代	201	8	4.0	412	8	1.9
陽性	20	8	40.0	35	7	20.0
陰性	181	—	—	377	1	0.3
50歳代	321	11	3.4	677	10	1.5
陽性	33	10	30.3	66	10	15.2
陰性	288	1	0.3	611	—	—
60歳代	691	5	0.7	1 225	13	1.1
陽性	35	4	11.4	74	13	17.6
陰性	656	1	0.2	1 151	—	—
70歳代	604	4	0.7	941	10	1.1
陽性	29	4	13.8	63	6	9.5
陰性	575	—	—	878	4	0.5
80歳以上	149	2	1.3	156	1	0.6
陽性	10	2	20.0	15	1	6.7
陰性	139	—	—	141	—	—

設問7「気分がひどく落ち込んで、自殺について考えることがありますか? <はい>」については、特に40歳代・50歳代の男性が他に比べて高い出現率であった(表5-7)。

設問8「最近ひどく困ったことや、つらいと思ったことがありますか? <はい>」では、全員(陽性+陰性)および陰性者群の両群で、どの年代層も女性の出現率が男性よりも高い値であった(表5-8)。

#### IV 考 察

今回、鹿児島県内の一部市町村で行っている「基本健診の場を活用した『うつスクリーニング』」について、その1次判定とそれに関する各設問の回答状況について調査した。

40歳代・50歳代の男性で「1次陽性確定者率」が1割を超えており、また、この集団では「毎日の生活の充実度低下」「自分の存在意義への不安」などの抑うつ症状、「気分の落ち込みと自殺念慮」において、「初期陽性反応」が特に高いことがわかった。近年、壮年期男性の自殺率が話題になっているが<sup>2)</sup>、本調査の結果もそれを示す内容となった。

一方、今回スクリーニングの場として活用した基本健診の受診状況をみると、鹿児島県では特に壮年期男性の低い受診率が課題と考えられているが<sup>7)</sup>、本調査結果と併せて考えると、今後、基本健診の場を活用してうつスクリーニングを行う際は、壮年期男性の基本健診受診率向上が大前提であり、その対策には重要な意義があると考えられる。

また、「こころの健康」へのかかわりについて、自殺やうつ状態との関連をもとに各種アプローチが行われているが、今回用いた調査票の8設問ごとの性別・年代別(男性/女性, 60歳未満/60歳以上など)での「初期陽性反応」の出現状況から、性・年代などの属性によって「生きがい維持を主としたアプローチ」「身体機能維持を主としたアプローチ」「うつ気分への対応方法を主としたアプローチ」を適宜組み合わせるなどの工夫が、対策企画の際にはより効果的で

表5-8 設問8の「性・年代別の初期陽性反応の出現率」(平成14~15年度)

	男 性			女 性		
	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)	受診者数 (人)	初期陽性 反応(人)	率 (%)
総 数	1 984	143	7.2	3 444	361	10.5
陽性	128	60	46.9	258	143	55.4
陰性	1 856	83	4.5	3 186	218	6.8
40歳未満	28	—	—	44	8	18.2
陽性	2	—	—	6	5	83.3
陰性	26	—	—	38	3	7.9
40歳代	201	15	7.5	410	40	9.8
陽性	20	12	60.0	34	18	52.9
陰性	181	3	1.7	376	22	5.9
50歳代	321	35	10.9	677	93	13.7
陽性	33	18	54.5	66	39	59.1
陰性	288	17	5.9	611	54	8.8
60歳代	687	44	6.4	1 218	120	9.9
陽性	35	15	42.9	74	48	64.9
陰性	652	29	4.4	1 144	72	6.3
70歳代	598	37	6.2	938	80	8.5
陽性	28	10	35.7	63	26	41.3
陰性	570	27	4.7	875	54	6.2
80歳以上	149	12	8.1	157	20	12.7
陽性	10	5	50.0	15	7	46.7
陰性	139	7	5.0	142	13	9.2

あろうとの示唆を得た。

さらに、今回の調査結果は、今後、他の保健事業の場を活用したり、他地域で基本健診の場を活用してこのスクリーニングを行う場合に参考となる基礎的なデータであるとともに、各種場面で実施された結果と整理し、適宜、データを集積していくことで「基準値」となることが期待できると考えられる。

なお、各自が記入した回答結果と回収時に保健師などが確認し必要に応じて修正した結果を明確に分別することは、今回のすべての調査票ではできなかった。設問ごとのいわゆる「回答修正」の現状の把握については、今後の検討課題と言える。

このような制約により、「初期陽性反応率」は厳密に言えば実際よりも低めに出ていると考えられるが、今回明らかにできなかった設問ごとの修正状況については、今後、完全自記式調査票の開発を行う上でもさらに調査・分析を行っていく必要があると考えられる。

なお、本調査研究は、厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)の一環として行ったものの一部をもとに実施したものである。

文 献

- 1) 大野裕(主任研究者). うつ状態のスクリーニングとその転帰としての自殺の予防システム構築に関する研究(総合研究報告書). 平成11~12年度厚生科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業), 2001; 27-41, 155-84.
- 2) 大山博史. 医療・保健・福祉の連携による高齢者自殺予防マニュアル. 東京: 診断と治療社, 2003.
- 3) 中村健二, 宇田英典, 中俣和幸, 他. 鹿児島県における自殺防止対策事業~基本健康診査事業へうつスクリーニングを導入することに関する調査研究. 平成14年度自殺と防止対策の実態に関する研究報告書. 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業), 2003; 429-39.
- 4) 宮ノ下洋美, 宇田英典, 中俣和幸, 他. 自殺防止対策における体制整備とうつスクリーニングに関する調査研究. 日本公衛誌 2003; 50(10): 756.
- 5) 北和歌子, 中俣和幸, 宇田英典, 他. こころの健康づくり対策に関わる関係者の意識等の変化. 日本公衛誌 2003; 50(10): 766.
- 6) 千村浩, 宇田英典, 中俣和幸, 他. 鹿児島県における自殺防止対策事業~既存保健事業へうつスクリーニングを導入することの意義に関する調査研究. 平成15年度自殺と防止対策の実態に関する研究報告書. 平成15年度厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業), 2004; 215-23.
- 7) 鹿児島県保健福祉部健康増進課作成. 平成12年度鹿児島県的生活習慣病(第31号). 2002.